

平成 20 年 3 月の解説（週間天気予報）

【3月の天候状況】

上旬は移動性高気圧に覆われ、全国的に晴れて北日本を中心に暖かい日が多くなりました。中旬は日本付近を低気圧がときどき通過し、太平洋側を中心にまとまった雨となりましたが、その他の日は全国的におおむね晴れて気温の高い日が続きました。下旬は中ごろに日本付近を低気圧が通過し、全国的に雨となり、沖縄や四国の一部では大雨となりました。その後、上空の寒気がゆっくりと通過したため、各地で大気の状態が不安定となり、降ひょうや突風の観測されたところがありました。

月を通しての日照時間は、北日本の太平洋側で少なかったほかは全国的に多くなりました。降水量は北日本では少なく、かなり少なかったところもありましたが、沖縄・奄美では多くなりました。その他の地方は大体平年並みになりました。月平均気温は北日本と東日本でかなり高く、西日本では高くなりました。

【3月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より6ポイント高い73%でした。ほとんどの地方で例年を上回り、特に北日本と九州南部、沖縄地方では例年より9ポイントから15ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、北海道、沖縄地方以外は例年を下回って、特に東日本と中国地方では例年より0.7から0.8小さく、全国平均は例年より0.4小さい2.3でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差もほとんどの地方で例年を下回って、特に近畿、四国地方では例年より0.6小さく、全国平均では例年より0.3小さい2.0でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の週間天気予報から】

3月9日から10日にかけて、低気圧が本州の南岸を東北東進して日本の東に抜け（図1）、西日本から東日本にかけての広い範囲で雨や雪が降りました。東京地方も10日の昼前に全域で5mm前後の雨が降りました。週間天気予報では、7日前（3日発表）から3日前（7日発表）までこの日の天気を「くもり時々晴れ」か「くもり」と予報し、雨は予想していませんでした。

図2は3日(7日前)発表の予報で使⽤した10日21時の予想資料です。日本の東に⾼気圧があり、東シナ海南部から降水域が北東にのび、九州北部や中国⼊方でも雨が予想されています。関東⼊方でもこの⾼気圧の後ろ側に入って湿った空気が流れ込みやすくなるので、雲の⼴がりやすい天気を予想していました。

図3は7日(3日前)発表の予報で使⽤した予想図です。この時点で初めて低気圧が本州南岸を東に進む予想となりましたが、陸上への雨域の⼴がりは部分的で、⼴範囲の降水にはいたらないと考えました。

低気圧の影響が関東⼊方に及ぶ可能性が高くなったのは8日(2日前)の予報からで、この日以降、東京⼊方は「くもり時々雨」と予報しました。

7日前から3日前の予報では、湿った空気が関東⼊方に流れ込む影響で東京⼊方はくもりがちだが雨の予想はありませんでした。しかし、実況は低気圧の影響で全域に雨が降りました。湿った空気が流れ込んで、低気圧が発生するかどうか、また低気圧のコースや発達程度、それに伴う雨域の⼴がりなどについてが微妙に変化することがあり、このような場合は雨が降るかどうかを1週間近く前からの確に予想することが難しくなってきます。

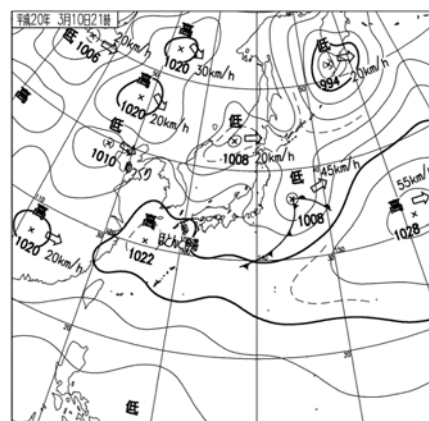


図1 平成20年3月10日21時の地上天気図

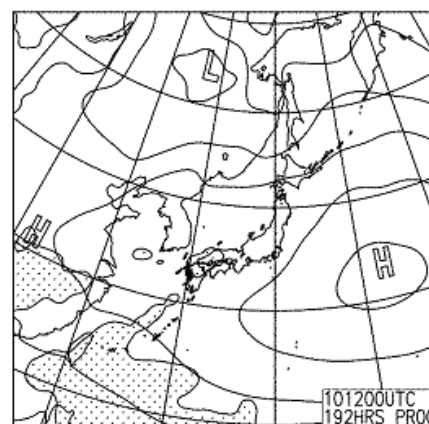


図2 平成20年3月3日(7日前)の予報で使⽤した10日21時の予想資料：水玉模様は降水を予想した範囲

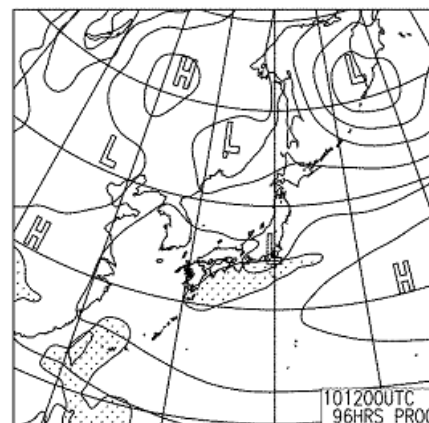


図3 平成20年3月7日(3日前)の予報で使⽤した10日21時の予想資料：水玉模様は降水を予想した範囲

【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は気温が上がって時には西日本や東日本で気温が30℃を超えることもありますが、気温の経過は年によって大きく異なります。

5月は野外活動に適した、晴れて暖かい日が多い時期で、野外での行事やレジャーなどの予定も多くなります。週間天気予報を利用される際には、天気だけでなく気温の予想にも注意して準備することをお勧めします。